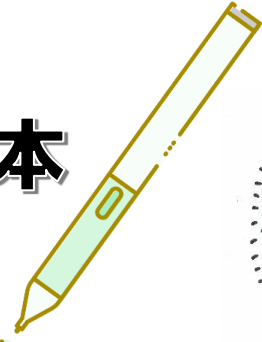


日高市立図書館
ヤンちゃん通信
No.31

入試で出題された本



中学・高校・大学入試で出題された作品の中から
おすすめの本を紹介します。過去に出題された作品を
知っておくと入試の時に役立つかもしれません。
ぜひ一度読んでみてください！

『やらかした時にどうするか』

畑村洋太郎/著 筑摩書房 14

どんなに注意しても、どれほどたくさん知識を備えても、失敗を完全に防ぐことはできません。失敗を恐れることなく果敢にチャレンジできるよう、失敗の原因を分析し、それを糧にする方法を紹介します。

『神さまのいうとおり』

谷瑞恵/著 幻冬舎 913.6 ㌸

父が仕事を辞め、曾祖母の住む田舎に引っ越してきた高校生の友梨。バラバラな家族の問題を曾祖母の暮らしの知恵を通して解決していく様子をオムニバス形式で紹介します。

『雪のなまえ』

村山由佳/著 徳間書店 913.6 ㌸

不登校の小学5年生・雪乃は、会社を辞めた父と長野の田舎へ移住することに。長野の大自然に触れ、地元の人々や新しい友人との出会いをきっかけに雪乃が心の傷と向き合い、自分の居場所を探す成長物語です。

『おくることば』

重松清/著 新潮社 B913.6 ㌸

小学六年生のユウたちは、先生から厳守するよう言われたルールを体育館裏でこっそり破る一。私立中学の入試にも取り上げられた表題作のほか、早稲田大学のゼミでの思いを綴った「夜明けまえに目がさめて」など、今を生きる君たちにおくる短編集。

『友だち幻想』

菅野仁/著 筑摩書房 36

SNS時代の複雑な人間関係の中に生きる皆さんにぜひ読んでほしい「人とのつながり」を考える本。中学から大学の課題図書や入試問題に何度も使われています。

『君と読む場所』

三川みり/著 新潮社 B913.6 ㌸

職場体験に図書館を選んだ有季は、繊細で無口な女の子・麻友と一緒に実習することに。時代小説「さぶ」が2人の距離を近づけて…。県内の高校入試でも出題された、人と本をつなぐ物語です。

